

お口爽やかですか

テーマ 日本口腔衛生学会北海道地方会・特別講演

新潟県・25年間の運動で歯科保健全国一の成果

去る2月16日(土)、日本口腔衛生学会北海道地方会が北大の北海道国際交流センターで開催され、特別講演で新潟大学の佐久間汐子先生が新潟県の25年間の取り組みと成果についてお話になりました。

特別講演は「フッ化物応用と地域歯科保健」という

題名で、内容は、フッ化物応用の普及啓発に向けて行った研究報告と、新潟県の歯科保健計画の成果についてでした。この日は朝からの暴風雪で大荒れの天候にもかかわらず、来場した多数の聴衆は大変感銘を受けました。

37年前(1970年)からフッ化物洗口スタート

集団の場でのフッ化物洗口は37年前(70年)、新潟

県弥彦小学校で開始された。有効性の評価の過程で、就学前からのフッ化物洗口の必要性が示唆され、現在では、保育園の4、5歳児から中学校卒業時まで11年間、施設単位で行うことが効果的な方法として認められています。

フッ化物洗口は小学校316校 保育園・幼稚園で376園実施

フッ化物洗口の有効性に関する評価は、開始当初から行われ、その確認に基づいて新潟県歯科保健計画：むし歯半減10カ年運動(81～90年)の主要な予防手段として位置づけられました。その後、ヘルシースマイル2000プラン(91～00年)、ヘルシースマイル21(01～10年)と本計画の発展に伴い、フッ化物洗口の

実施施設数は着実に増加しました。

05年では小学校で316校(全体の55%)、保育園・幼稚園では376園(同40・8%)が実施しています。

小・中・高校生のむし歯のない者の割合は20%から64%改善

新潟県は、今年度、子どもたちのむし歯半減を目標として進めてきた歯科保健計画の25年の成果についてまとめました。それによると、12歳児の一人平均のむし歯本数は80年の5・03本から0・99本(06年)と北海道の半分と驚くべき減少を示しています。小・中・高校生のむし歯のない者の割合は20%から64%へと健康度は大きく向上しました。また、ヘルシースマイル21では、8020

育成事業と銘打ってフッ化物洗口との複合応用として、学校歯科健診でのCO(むし歯の危険性のある歯)に対してシーラント応用などを行うように指導されています。

歯科保健事業の範囲を全分野に拡大

このようなめざましい改善の要因として、県知事は「フッ化物応用によるむし歯予防が進んだ」ことをトップにあげています。そして、ヘルシースマイル21として3期目に入った歯科保健計画は、永久歯のむし歯対策に加えて、乳歯のむし歯予防、歯周疾患予防、さらには障害者・高齢者対策へと事業計画の範囲は拡大しています。